

名古屋芸術大学グループ 通信

15
February
2011



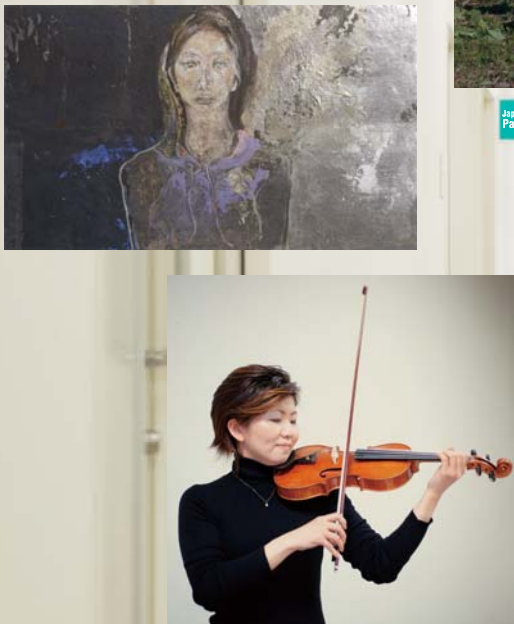
Director
Advertisement



Industrial
Designer



Japanese
Painter



Close up! NUA-ism OB/OG Special

名芸よ!
学生たちよ!
後輩たちよ!

Close up! NUA-ism

NUA-STUDENT
創るということに積極的でいたいです
美術学部 アートクリエイター領域
アートクリエイターコース 3年
金沢実徳
父の仕事が手伝えたらいいなって
美術学部 日本画領域
日本画コース 3年
帆刈晴日

News/topics

ニュース&トピックス

大学/大学院

- 2010芸大祭
- 第21回生涯学習大学公開講座

音楽学部

- 北名古屋市民芸術劇場2010
ザ・ベストテン CONCERT
- 第33回定期演奏会が行われました
- 第29回室内楽の夕べが行われました
- 2010年度 冬期音楽講習会

人間発達学部

- 人間発達学部3年生の山下藍さんが
「NHK中学生日記」の主人公を追う番組に出演
- 2010年度後期文化創造セミナー
「美術を読む〜たとえに満ちている世界〜」
が開催されました

美術学部/デザイン学部

- 特別客員教授 萩原修ディレクション
5つのプロジェクトファーム「デザイン・のしゅうへん展」
- 美術学部公開講座
東京スカイツリー「アートと社会の交差点」
- 2010年度後期交換留学生作品展
幼稚園児たちのゲイジツ展
- 名古屋芸術大学創立40周年記念
特別公開講座<MCD>project
ホンマタカシ公開ワークショップ 講評会

グループ校特集/名古屋保育・福祉専門学校

- 「保育専門学校」ってどんな学校

コラムNUA

漢字と仮名の間
人間発達学部教養部会
教授 安藤淑江

Master Artist

マスターアーティスト

旅と痛み
美術学部 工芸領域 陶芸コース
教授 吉川正道

Information

インフォメーション

- 2011年2月〜4月までの主な行事・イベントスケジュール
- 編集後記



名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

- 名古屋芸術大学/大学院:
音楽研究科
美術研究科
デザイン研究科
- 学部:
音楽学部
美術学部
デザイン学部
人間発達学部
- 名古屋保育・福祉専門学校/
保育科 介護福祉科
- 名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園
■ 滝子幼稚園



Close up!
NUA-ism
OB/OG
Special

名芸よ！ 学生たちよ！ 後輩たちよ！

オペラ歌手



中井 亮一

(なかい りょういち)

山口県生まれ
2000年 音楽学部声楽科卒業
2002年 大学院音楽研究科声楽専攻修了
2005年 イタリアに留学
2007年 ミラノ・スカラ座音楽院オペラ研修所
合唱団員養成コース修了
2010年 藤原歌劇団「タンクレーディ」(東京文化会館)に
主役テノールの役で客演



◀スカラ座
音楽院の
同僚たちと



▶スカラ座に
出演した
時の
ポスター

中井さんが声楽の道を志すのは、大学2年になってから。それまでは、トランペットの奏者を目指していたとのこと。受験でも苦勞し、転科をしてまでもこだわり続けた音楽の道。どんなことを考えていたかを伺いました。

「おまえ、歌をやるべきだ」

— 最初から声楽というわけではないんですね？

音楽の先生を目指す、音楽教育学科というのがありまして、そっちへ入学しました。実は、名芸なんですけど3回落ちてるんです！1浪なんですけど、都合、3回トランペットで受験してるんです。現役と浪人にて2回、当時、2次募集っていうのがありまして、その時の第一希望も器楽科で、トランペットで3回目。3回ともダメでした。2次募集の第二希望に音楽教育学科と書いて、そっちで合格しました。その時の試験監督が、たまたま私の恩師の中島基晴先生だったんですが、そういうご縁です。

— 声楽をはじめたきっかけは？

1年の時の、大学のオペラ公演ですね。男性が足りなくて出てよってということで。僕は音楽教育ですけど中島先生のレッスンに付いていたのでその流れで出たんですけど、それが大きかったですね。その後、中

ヴァイオリニスト



保位 真菜美

(やすい まなみ)

三重県生まれ
音楽学部器楽科卒業
研究生修了
在学中 故 近藤フミ子氏に師事
幼少よりスズキメソッドにて
ヴァイオリンを始め
末廣悦子氏に師事
国際スズキ・メソッド音楽院にて
豊田耕児氏に師事
ドイツ・ミヒャエルスタインにて
豊田耕児マスタークラス修了



たくさんの人の心に響く音楽を奏でられる奏者を目指し、活動中。Concert Mami (こんちえると まみ) 代表としてコンサートの企画・運営を行う。オーケストラ・トレーナー、コンクール審査員、ステージの演出を務めるなど、演奏以外の活動も精力的に行う。

ヴァイオリンを演奏していきたい！

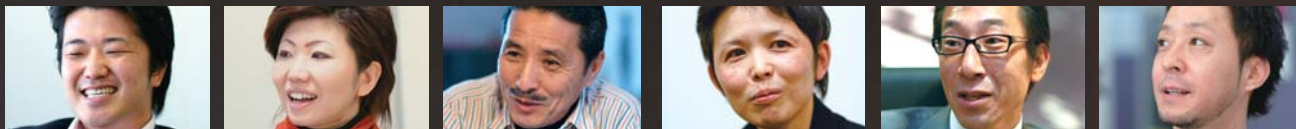
— どんな学生でした？

練習よりも友達とおしゃべり。練習よりも遊び。結構怠けておりました。でも、そんな中たくさんのコンサートに出演させていただき、オーケストラではコンサートミストレスもやらせていただきました。また、公開レッスン受講や、海外演奏旅行への参加など、とても有意義な学生生活を送りました。

— 演奏家としてヴァイオリンを弾いていこうと思ったのはいつ頃？

二十歳ぐらいの時でしょうか。やっぱりヴァイオリンだな、ヴァイオリンを演奏していきたい!と思いました。ですが具体的なことはあまり真剣に考えず、想いだけが先行していたと思います。

— そのまま演奏家に？



就職内定率が過去最低の水準にまで落ち込んだというニュースが報じられています。就職氷河期の再来に、新たな4年生、3年生は、心配しているのではないのでしょうか。企業への就職を志向せず、クリエイターとして活動したいと考えている人にとっても、景気の悪化は大きな不安材料です。“面接のコツ”などといったハウツーばかりを追いかけても、得られるものはごくわずかなものでしかありません。

今回の特集は、本学のOB、OGの活動を紹介し、これから社会に出る学生たちへアドバイスをいただきました。先輩たちは、どうだったのでしょうか？何を考え、どんなことをやってきたのか。就活に限らず、創作することや生きていくことへの示唆にあふれています。先輩たちの言葉に耳を傾け、自分の将来と今やるべきことについてイメージしてみてはいかがでしょうか。

島先生が強く薦めてくださって、「おまえ、歌をやるべきだ」って。自分は、全然だったんですけどもね、その時は。

一 抵抗とかありませんでした？

トランペットにしがみついてもプロというのは厳しいなということはわかっていましたし、先生がおっしゃるんなら信じて、受身の音楽生活もいかなって言うくらいで、されるがままに転科したのを憶えています(笑)。悩みましたけど、しがみついても上手く行かない、受身でもチャンスがあることなんか少ないので。僕はテノールなんですけど、ほとんど男性はバリトンで、学校の中にもテノールは二人くらいしかいなかった時期だったというのもあって、環境もラッキーだったと思います。

音楽というのは、しがみついてもやる価値のあるものだと、僕は信じてる

一 この道で行こうと決意したのはいつ頃？

職業として、プロになる可能性があるんじゃないかと考えるようになったのは、大学院を出たあとですね。2、3年プロ活動をしてからです。その当時は、一応プロといっても、人前で歌ったり、厳しい世界なので自信はなかったですね。特にオペラの世界というのは、声楽技術が大事なのももちろんですが、それ以外の部分も非常に強いんですね。舞台ですから、視覚的な要素も重要です。僕は体に恵まれていないので、指導者としての道も考えるべきだと、常にアドバイスも受けています。イタリアへ留学していたときなんか、180cmくらいの女性と一緒に舞台上がるわけですよ。彫りが深くて美形で、僕なんかおもしろい日本人顔ですよ(笑)。今に至るまで、たやすくこれでやっていけるだろうなと思うことはないですね。この道でやっていくことは大変だろうなと思います。

一 でも、やっていくわけですよ(笑)。気持ちを支えるのは何？

情熱でしょうかね。音楽というのは、しがみついてもやる価値のあるものだと、僕は信じてるんですね。自分に、才能があるとか、できるできないとかはまた別の問題で、天才とかがいる世界ですから、上を見てもキリがないですから、音楽が好きだという思いで音大に入ったのなら、その情熱が一番糧になると思うんですね。

一 折れそうになったこととか、ありません？

ありますよ、ありますよ(笑)。留学で3年間行ってきましたけど、彼女を置いてきましたからね(当時の彼女は、現在の奥さま)。29歳で留学に行きましたからね。お金がなくて、結婚できなくて、最悪ですよ。いまだに言われますよ、彼女の親からも(笑)。

とにかく、いい指導者に巡りあえたというのは、学校に感謝ですね。

いいえ。何せ大学時代は怠けていましたので、技術不足。これじゃいけない、これじゃヴァイオリンでやっていけないと重々わかっていました。学校の中に入れば、ある程度弾ければ何とかなります。単位も取れば卒業できる。でも世の中に出たらそうはいかないです。弾けなきゃダメ、即刻クビの世界です。人前で弾くことですからきちんとしなくてははいけません。大学を卒業してからのことになりますが、もう一度気合を入れ、ゼロから勉強し直しました。

心に響く音楽を

一 演奏家以外の道は考えずにきたんですよね？

そうですね、他の道を考えることはなかったですね。でも、大学在学中より少しずつ活動を始めたものの、思うように演奏できず、楽しめないでいる自分がいま

した。両親には大きな負担を掛けましたが、また勉強させてもらい、その後活動しながらもたくさんのことを学び、今では演奏することが楽しくてしょうがないです。演奏で自分を表現することは演奏家にとって大きな喜びでもあります。演奏会で自分の音楽が、また自分の想いのお客様に伝わった時は本当に嬉しいですし、更にその想いが自分に返ってきた時は、もう喜びを通り越し感動です！

一 大事なことってどんなことだと思います？

演奏をやりたい人は、まず技術を磨くこと。誰が聴いても心地よいと思える演奏ができる技術を身につけることが大事です。でももっと大切なことがあって、それは人間性を養いながら人生を楽しみ、心豊かに生きていくことです。ステージで奏でる音楽・音は、その人の全てを現します。常に学ぶ姿勢、何事にも真剣に、本気で取り組んでいき、人間の内面

を磨いていくことができたなら、一音楽家、また一人間として幸せな人生を送ることができるのではないのでしょうか。私はそう信じています。

♪コンサート情報♪

MORGEN KONZERT

～ヴァイオリンとアコーディオンで奏でる朝のひととき～

2011年4月24日(日)10:30開演

愛知芸術文化センター・中リハーサル室

入場料 2,000円

出演/ヴァイオリン 保位真菜美
アコーディオン TITO MONTE

クラシックやタンゴの名曲をお届けする
1時間のコンサートです。

お問い合わせ/チケット販売・ご予約
Concert Mami(こんちえると まみ)080-3627-3629
芸文プレイガイドでもチケット販売予定

彫刻家



山田 将晴

(やまだ まさはる)

愛知県生まれ
1977年 彫刻科卒業
1976年～中部二科展
(’76新人賞’77特選’79中部二科賞’83外遊賞)受賞
1977年～二科展
1979年 第64回二科展 特選受賞
1985年 第70回二科展 会友賞受賞
1988年 第二回日本現代陶彫展
特別賞受賞
1994年 第79回二科展 会員推奨
2002年 紺綬褒章を受章
2007年 第92回二科展 会員賞受賞
個展 1986年、2006年

二科会彫刻部会員
ギャラリーアサンブラージュ代表



主に大理石を素材とする彫刻家。作品は、小さなものから、数十トンにも及び巨大なモニュメントと、さまざまに及びます。今回は、運営するギャラリー、アサンブラージュに伺いました。知多半島の先端、潮の香りが漂い眼前に海と島の風景が迫る明媚な場所。柔らかな話し方が印象的です。

濃密なマツタリ感

一ご出身は常滑ですよ？

家業は製陶業でね。跡取り息子だったんです。家を継ぐために、常滑高校の窯業科、そこの彫塑コースへ行っただけです。うちがノベルティの会社でしたもので、輸出用の人形や置物を作っていましたからね、そういうものの原型をやろうと入ったんです。ところが、2年生の時に、新制作で彫刻をやっていた先生が赴任してきた。若いですよ、僕が17歳、先生は新卒で22歳ですからね。授業で創った僕の作品が、たまたま目にとまったんですね。で、「山田、一緒に石でなんかやらないか」ということになりまして、課外授業です。彼は、その時は木彫がメインでやっていたんですけど、石が彫りたいっていうことになりまして。まず道具を作ろうと、炉を作った。コークスで火をおこして叩いてノミを作って、で石を彫る。それが始まりかな。

日本画家



林 真

(はやし しん)

岐阜県生まれ
1999年 美術学部日本画科大学院修了
1996年 日展初入選 中日賞
1997年 荻須記念美術館稲沢公募展 最優秀賞
1998年 日本一短い手紙コンクール
一筆啓上賞 郵政大臣賞
2004年 日春展 奨励賞
2005年 臥龍桜日本画大賞展 大賞 (’04 優秀賞)
2006年 国土緑化ふるさと切手 原画制作
2008年 ビエンナーレうしく 優秀賞
TYK 絵画大賞展 大賞
2009年 岐阜市芸術文化奨励賞
2010年 イタリア・ソレント日本文化祭出品
上海万博博覧会 中・日・韓文化交流展出品

作品と同じように、繊細そうな物腰と物言いが印象的な林さん。しかし、その柔和な雰囲気とは、異なった学生時代だったとか。絵や仕事に対する一本気なところや、芯の強さなど、ひとつかたならぬものを感じさせます。

最低の、最低の成績でした

一お父さんに薦められて？

高校時代は油絵だったんですけど、なんとなく油絵が自分でも合わない感じがしてたんです。変な話、油絵の具が服に付くと取れないから嫌だとか、乾かないのに塗っていくのがものすごく嫌だとか、上手くやれなくて。そんな時、父親が、おまえの色使いや筆遣いは、日本画に合っている、半ば、無理矢理日本画に変えられて(笑)。でも、日本画に変わって、最初からすごく体に馴染んだんです。父親がちゃんと見てくれたのかなと、思いますね。

一それでは、大学に入ってから問題なく？

それが、先生たちに今でもびっくりされるんですが、1年生の時は遊んでばかりで、教室にいませんでしたよ。今、職業としてやっているのが、先生方は不思議とおっしゃる。

一いい学生じゃなかった？

愛知株式会社 総合企画室 デザイン開発 G 次長



熊澤 工

(くまざわ たく)

愛知県生まれ
1993年 美術学部デザイン科卒業
2010年 グッドデザイン 中小企業庁長官賞 受賞
入社以来、11点のグッドデザイン賞を受賞



学校や会館、体育館などの公共施設、ホテル・劇場などで使われている家具を製造する愛知株式会社。1960年代から、数多くのグッドデザイン賞を受賞していることでも、知られています。熊澤さんも、これまでに、いす、テーブルなど11点もの製品でGマークを獲得。多数のヒット商品を生み出しているデザイナーです。愛知株式会社のデザインギャラリーでお話しを伺いました。

動機と結果を結ぶもの

一新卒の方や、若い社員を見てどんなことを感じますか？

与えられることに当たり前になってきている世代なのかなと思います。バイタリティや、自分から取り組んでいける積極性が、ひとつのポイントになりますね。自己アピールの度合いとかもですね。

一もつとプレゼン能力やコミュニケーション能力が高ければいいということ？

そうですね。採用の話をするれば、デザイン部門では、丸一日かけての実技審査というのをやりますので、そこでの課題は、どうアプローチするか、どうアピールするかということも含めて問われます。それから、美術系の学生さんでしたら、ポートフォリオですよ。それを見るために、我々も何日間かは時間を取って向かうようにしています。

一学生はどんなことに気を付ければいいですか？

—それ以来、石ですか。家を継ぐことは？

いや、それで悩んでメヌエル病になってしまったんですよ。家業を継ぐか、好きなことをやりたいかということだね。本当は東京へ行きたかったんですけど、通院しなくちゃいかんと言われてしまって、それで名芸になった（笑）。でもね、名芸に入ってよかったと思いますね。すごくね濃密なマツタリ感というか、じつくりとものごとに取り組むことができたんです、僕らが学生の頃は。

—変わらないと思いますよ。今も、自由な雰囲気は受け継がれていると思います。

うるさくなかったなあ。でもね、僕が入った時には、石を彫っている人がいない。それで、彫る場所もない。だからどうしようかと困りましたね。一応、授業の課題ではやるんですけど、もっと本格的にやりたいなと。それで、トラックで石を運び込んでグラウンドに並べたんです。ソフトボール大会なんかをやるところにね（笑）。邪魔になるだろうから石を彫る場所を要求す

るためにね。そうして、今の絵画棟の前、あそこの場所をもらって始めたんですよ。やりましたねえ（笑）。

計算なんてなかった

—作家になりたいと思う人にアドバイスするなら？

最低限、食べる手段を見つけること。あとはどんな空間でもいいから仕事のできる場所を確保し、小さな作品でもいいから作り続けることですね。僕は、たまたま運がよかった。学生時代に石とか道具とかいっぱい買ましてね、借金があつたんです（苦笑）。それで、当時、神戸先生がまだ講師だった頃だと思うんですが、先生に頼んで土岐市の建材関係の会社を紹介してもらい、時代が良かったのですね。太っ腹で芸術に理解のある社長と出会い、工場の一角にアトリエを貸していただいて、そこで 20 年くらいはやっていました。ある程度、自由に制作する時間があって、毎年の二科展とか公募展なり、グループ展だ

とかの活動もできて、そういう恵まれた時代を過ごしましたね。

—理想的ですね。

そうですね、今まで続けてこられたのは、その社長のおかげだと思います。今でも僕の作品を楽しみにしてくれていて土岐から時々、見に来てくれるんですよ。ありがたい事です。でも僕らの学生時代は、何でもやりましたからね。死体洗いのアルバイトとかもね。お金になるようなことはみんなやってましたね。港の船の警備員、あれはメシがいいよとかね。旅館の布団敷きをしながら彫刻彫ってる友人もいましたしね。

—今の人にはないハングリーさ、ですか？

今の若い人たちは、堅実なんですよ。僕らの頃は、計算なんてなかったですね。学生でも平気で借金するくらい（笑）。とにかく続けなくちゃ何も始まらない。成長もないし、出会いもない。ただ、がむしゃらに彫ってたという感じてしたね。昔も今も、実際のところは変わってないと思うんですよ。

もう、全然です。成績も、1、2年生の時は、最低の、最低の成績しか付かなくて、それぐらい……（笑）。

—いつごろから真剣に？

3年生の時の自由課題で、動物を好きに描けばいいというのがありまして、その時に、なぜだか判りませんけど、それまで間に合わせのような中途半端な絵ばかり出してきたから、一回我慢して腰を据えて、自分の納得いくまでやってみようと思ったんですね。その時ですね、描いている絵が夢に出てきたんですよ。その絵の仕上がりが出てきたんです。じゃあ、これを夢で出てきたように仕上がるまで、自分がどこまでできるのかやってみようと思ってやってみたんです。それで、根詰めてやって出品したら、すごく誉められまして。それから、誉められると人間って頑張れるし、腰を据えてやってみると自分はここまでできるんだ、というのが自信になって、ものすごく真面目に取り組むようになりましたね。

馬鹿みたいな情熱があっただけです

—その後は、絵一筋ですか。悩むこととかは？

絵の事については、勿論悩みます。でもその前に、「どう生きるか」という事を常に考えていたいと思っています。

—保障のない世界じゃないですか。将来への不安みたいなものは？

なかったです。考えた事もないです（笑）。今でも続けられているのは、周囲の方のお陰は勿論ですが、馬鹿みたいな情熱があっただけかな？って思います（笑）。

—大事なことは？

描き続ける事だと思います。三岸節子の「さいたさいたさくらがさいた」という絵が好きなのですが、その作品は絶筆で、初めて観た時はそのことを知らなかったんです。その時に、本当に動けなくなるくらい衝撃を受けました。「これって自分が死ぬのを分

かって描いているな」って直感で思いました。後ろから頭を殴られた様な気になり、その時は少し落ち込んでいる時だったので「何をやってるんだ、思いっきりやるだけじゃないか」ってすごくシンプルで当たり前の事ですが、心の底からそう思えもの凄く勇気が湧いたのを覚えています。



「岩が・・・」2010 年日展出品作

僕自身、若い社員たちにも言うんですが、デザインをするということは、形を司ることだけではないと思うんです。全てにストーリーがあって、動機と結果を結ぶものがデザインだと思うんです。いつも考えているのが5W1Hなんです。成り立ちがはっきりしていて、そのためにどう考えたかという部分ですね。学生時代は、往々にして形から入ってしまいがちですが、そうではないんです。デザインの線一つに、そこに意味がなければその線はやめなさいとよく言うんです。線一本、アールライン一本にも、全て理由があるはずなんです。ポートフォリオで、そういった背景にある考えが判るようにしてあれば、我々としては高い評価ができるかなと思います。

自己満足の商品では、満足しきれないと思うんです

—ご自身が働き始めて、学生の頃と違うなと思うことは？

工業デザインの中でも、家具は、自動車や家電製品と違いまして、構造体がデザインとなっています。家具をデザインしていく上では、まず、強度ですよ。構造工学が頭に入っていないと成り立ちません。不特定多数の方が使うようなものや、長く使えるロングランの製品を目指すとなると、構造工学が軸となってきます。今でも、新しい技術の勉強は欠かせないですね。

—学生時代は、そんな踏み込んだところまではやってませんよね。働き始めてギャップはありました？

最初は、本当に最初の入口の頃はちょっと抵抗があつたんですけど、やり出すと面白いんですよ。生産図面の知識、生産工学、構造工学、そういったものを兼ね備えていながらデザインする方がむしろ楽しいですね。

—生産工程や原価の制約が足かせに感じるようなことは？

そこがひとつのハードルになるんです。自分の理想を

実現するために、じゃあどうしたらいいのかと考える。自分にある知識の枠を超えるわけですから、情報を探して、色々な特殊な調査や検証作業なんかを、やっていくことになります。そうやってハードルを超えることにより、非常に差別化されたものができて来るわけなんです。知恵を絞った部分が特許になり、市場での評価を得ることができることになります。工業デザイナーにとって自己満足の商品では、満足しきれないと思うんですよ。最終的には、市場の評価が得られて、量産されて、ヒット商品となって初めて、本当の満足ができると思うんです。



スタッキングチェア「Tippo」
2010 年度グッドデザイン・中小企業庁長官賞受賞



安達 純

(あだち じゅん)

愛知県生まれ

1989年 美術学部ビジュアルデザイン科卒業

三井堂印刷 企画デザイン部入社

1990年 退社後、AXIS CREATIVE OFFICE 入社

1996年 広告制作所入社

1998～ 愛知広告賞入選

2001年 (ファッション CREARE/年間イメージポスター・
リニューアルポスター等)

2000年 愛知広告賞入選
(NTTドコモ東海 /i-mode 名古屋パルコ全館
広告ジャック)

2001年 愛知広告賞 雑誌広告部門賞
(NTTドコモ東海/モベラ コンテンツゲーム広告)

2004年 第54回日経広告賞
K部門(出版・コンテンツ・教育)準部門賞
(金城学院大学/薬学部ポスター)

2005年 第54回日経広告賞 環境広告優秀賞
NTTドコモ東海
(ドコモは100%リサイクル、新聞15段広告)



手がけた広告を見れば、「あっ、これ知ってる」と思わず声を上げてしまいそうなものばかり。グラフィック、TVCM など各種映像、インターネットメディア等あらゆる広告宣伝媒体の企画・制作という時代の先端に携わり続けるお仕事。名古屋市中区にある広告制作所のオフィス、まさに広告が生まれる現場にお伺いしました。

給料は7万円

一学生時代は、どんな学生でした？

よくないです(笑)。同じ頃に卒業してる先輩、後輩、今でもコミュニケーションを取るんですけど、みんな「学生時代はサボってたよ」と言うんですよ。でも、たぶん僕らのグループが一番横着かったのではないですかね(笑)。課題はやらない、講義は代返頼んでばかり、アルバイトに明け暮れ…。日課のように音楽学部の近くにあるセリカという喫茶店に行って、音楽学部の女の子をナンパしては遊びに行く、その繰り返しでした(笑)。

一いったん就職、すぐ辞めて、イギリスへ行ったんですか？

カッコよく渡英とか言いますが、そんなカッコイイもんじゃないんですよ。学生時代からバーテンのアルバイトをしていて少し貯金があったんです。会社を辞めて、両親からも「いつまでバーテンやってるんだ、いいかげんにせーよ!」と言われ家にも居づらく、そのままイギリスへ行ったんです。なぜイギリスかと言えば、当時の雑誌デザインは、まだアナログの時代で、写植して、色指定してっていう時代だったんです。ところが、海外の雑誌では、これはどんなふうに色指定をして作っているのか、想像の付かないものがあって、日本の雑誌とは格段に差があったんです。どうやって作っているのか、そこで行き着いたのがネヴィル・プロティというデザイナーが、どうもマツキントツシュという機械を使ってデザインをしているんだと。その人はイギリス人なんですよ。どうやら、ロンドンはそのようなグラフィックに溢れているらしいと。

一それで見に行ったということですか。イギリスには知り合いとかは？

ないですね。航空券買って、向こうで自分でフラット(アパート)を借りて。不安はありますよね。やったことなから。まあ、なんていうか度胸試してみたいなもんですよ(笑)。

一そして、戻ってきて新しい会社に勤める。すぐに見つかりました？

バーテンをやっている時のお客さんに、中部クリエイ



2005年 NTTドコモ東海
ドコモは100%リサイクル。
第54回日経広告賞 環境広告優秀賞
2005年静岡新聞広告賞
奨励賞 + 読者が選ぶ広告賞全賞



2000年 NTTドコモ東海
モベラ コンテンツゲーム
2001年 愛知広告賞 雑誌広告部門賞



2000年 クレア
リニューアル



2000年 NTTドコモ東海
i-mode 名古屋パルコ広告ジャック
2000年 愛知広告賞 入選

ターズクラブに所属されているデザイナーの方がお客さんにいまして、そういうつながりで、入れてもらったんです。でも皆さん個人でやられているデザイン事務所なので先生と弟子というか、そんな関係です。もうもう、弟子ですよ。給料7万円ですよ。たぶん今よりも厳しいですよ。いまなら、牛丼280円とかで食べられたりとか、マクドナルドが100円とか、100円ショップとかあるけど、その頃はまだないですからね。わりとなんでも高いんですよ。ユニクロもないし。ずっと高いですよ。

一嫌になりませんでした？

屈折はしませんでしたね。仕事は楽しかったです。ロンドンにいた時の話とか聞いてくれて、Macを入れてくれたりしたこともあって。学んでいるという立場での自分の意識が強かったです。給料も仕方ないかと思ってました。

Macはツール。 何も考えてはくれない

一最近の若い人の印象は？

うちの会社ではないですけど、いろんなお客さんから聞く話は、「最近の若い子は、みんな仕事がよくできるんです。真面目で、賢い。だけど本当の仕事ができない」(笑)。ルールの上を歩くのはよく言うことを聞いて上手なんですけど、ルールの外へ冒険してこいということ、もう何もできない。そこに考える知恵が

ない。そうするとどうなるかというと、ルールを引いてくれないので「ボクでできません」とはっきり言うのね。ルールを引かない会社が悪いと。それが今の時代の子たちかなという感じがありますね。

一では、どうすれば？

今の時代、デザイナーの仕事って、ともすれば Macオペレーターになってしまうんです。全ての業務がデザイナーに集約されて、最終のオペレーティングまでやる状況だと思うんですよ。アイデアを出してデザインを考えるんじゃないで、作業をしていること自体が仕事になっちゃう。うちの社内のメンバーには、「Macにできないことをやれよ」と言っています。つまり、頭で考えることは人間しかできないから、アイデアを出せと。いつも、常に、アイデアということに大事にしています。アイデアをあきらめたり、アイデアを放棄するような仕事の姿勢は、僕は認めません。

一就職を考える学生にアドバイスをお願いします。

うちの会社では、基本的には履歴書の備考欄とかに書いてある、本人のメッセージを大事にして面接をして決めています。そこに書いてある熱意ですかね。饒舌な文章じゃなくても、そこに込められている熱意ですよ。そういう人間とは必ず全員面接します。もちろん、新卒では、会社のレベルに合う業務はできないと思いますが、熱意さえあれば、会社のレベルのことができるようになる。スキルなんかよりも熱意ですよ。

Close up! NUA-ism



Vol.28
NUA-STUDENT
金沢実徳
(かなざわ みのり)
美術学部 アートクリエイター領域
アートクリエイターコース 3年



『スミカ』

創るということに積極的でいたいです

答えを探して、少し間を置き、宙を見つめるようにして考え込む。そして、堰を切ったように言葉が流れ出す。「何かものを創りたいと思っていました。それが、絵なのか、物なのか、追求はしてなかったんです。なぜアートクリエイターコースを選んだのか、はっきりとは憶えていないんですけど、絞っちゃうことが怖かったんだと思います」

金沢さんは、アートクリエイターコース第1期生の現在3年生。「OHOC オーホック」(One Hundred and One Creators、4年間で100人のクリエイターに出会い、卒業時には自分が101人目のクリエイターになるというプロジェクト)で、1年のときに会ったジャウマ・アミゴー氏(カタルーニャ人造形作家)の作品に大きな衝撃を受けたという。

「わーっ、この人！すごい！って感じで(笑)。その年、松岡先生がスペインへ

行かれるというので、ついていった。アトリエに泊まらせてもらって……。いい経験になりました」その影響もあってか、現在は平面、油絵とリトグラフに熱心に取り組んでいる。心象風景を表現した抽象画が並ぶ。さまざまな表現方法に取り組めるコースだが、平面に行き着いたのかと問えば、「まだ途中です」ときっぱり。まだ、技術的にも表現としても満足の行くところへは至っていないようだ。

「自分で描いていかないと成長ができない。創るということに常に積極的でいたいです」アクティブであり、自分をゆっくりと見つめる冷静さも併せて持っているように見受けられた。



『花の人』

【先生からのひとこと】1年生の時から、描くテーマのことでナイーブになって立ち止まってしまうことが度々あったけど、いつも、それでも『描こう』という姿勢は変わらず、その繰り返しで、今の瑞々しい表現に繋がっている。決して器用ではないからこそ『真摯』になれる。これがあなたの魅力の源であることを忘れないで。

美術学部版画コース／アートクリエイターコース教授 西村正幸

父の仕事が手伝わらいいなって



『カムパネラ』



『ジョバンニ』

モチーフの内面を表すような、重厚で多面的な表現が印象的な絵。アクセントとして加えられている箔も特徴的だ。

「将来、載金(きりがね)師になりたいくて、そろそろ勉強を始めようかなと思っているんです」載金とは、仏像や器物に、金箔や銀箔を数枚合わせ厚みをもたせたものを細かく切り、膠などで貼り付ける装飾の技法。聞けばお父上は仏師なのだそう。幼い頃から仏師として働く父の姿を間近に見てきた。「小学校のときには、自分で継ぎたいって思ってたんです。だけど、女には無理だと、ずっと言われ続

けて…。一旦は醒めちゃったんです。でも最近になって、やっぱり手伝いたいなって考えてるんです」父親の姿を見て育ったためか、中学生の頃から技術を身につけ自立したいと考えていたという。高校も美術科に進んだ。「早く働きたいって思ってたんです、進学よりも。それで、どうせなら自分のやりたい好きなことを思い切りやってみよう」大学への進学も考えていなかったというが、日本画を習ううちに、もっと勉強したいと意欲が沸き起こってきた。「油絵は、私の場合、絵の具が好きになれなかったですね。もっと、重ねて、重ねて、とやりたいんです。油は下の絵まで覆い隠してしまうので。日本画には箔もあるので、載金を勉強すれば、日本画にも使えるかなって思うんです」3人姉弟の長女というのにも頷ける確りとした性格。目標を得て、さらなる成長が予感される。



Vol.29
NUA-STUDENT
帆刈晴日
(ほかり はるひ)
美術学部 日本画領域
日本画コース 3年



『銀河鉄道の夜』

【先生からのひとこと】アトリエに行くと、いつも絵と対峙しひたすらのめり込んで、迷って、探している姿、「閃き」と云うのではなく「試行錯誤」の中から掴もうともがいている姿勢。確実に「なにか」を手に入れていると思います。貫いて下さい。

美術学部日本画コース教授 白井久義

大学 大学院

東キャンパス



今年の芸大祭のテーマは【はな】。平仮名の理由は、草木をイメージさせる「花」、大学生が行う華やかな「華」、芸大祭の香りが漂っ

2010 芸大祭

てくる「鼻」、そしてハワイの言葉での「ohana」。ohanaは、家族という意味があり、地域・学校全体で家族のような芸祭を開きたい。そんな願いを込めました。

今年は天候に恵まれず、開催ができないのでは…と、検討もしましたが、なんとか無事に3日間開催もでき、お客様からの温かい笑顔にも出会えました。

出演者、教職員の方々、地域の皆様全ての方々のおかげです。そして、芸祭実行委員のみんな、ありがとうございます。お疲れさまでした。

実行委員長 小淵千裕

西キャンパス



名芸の学祭は他の学祭とは異なる独特の空気があります。実行委員、名芸生、職員の方や地域の皆様の想いと支えによって芸大祭は毎年成り立っています。今年も「3, 2, 1 どっ感〜これは、みんなのつくる祭」というテーマのも

と、芸祭という祭を協力して作り上げ、懸念された台風の軌道をもねじ曲げる盛り上がりを見せました。芸祭前日の天気予報の内容は、謎のお天気マーク（恐らく超豪雨の意）が愛知県周辺を占拠している究極の状況でした。5月に京都にて晴天祈願をしたため、最終的には晴れることが分かっていた僕でも、さすがに動揺を隠せませんでした。でも今思えば、台風が直撃しても名芸生は暴風雨に負けずにどっ感していたでしょう。どれだけ規制が厳しくなっても時代が変わっても、芸祭は変わりません。名芸生がどっ感している限り、この祭りは進化し続けるでしょう。

実行委員長 前原圭佑

大学 大学院

第21回 生涯学習大学公開講座

東キャンパス

講座名 ▶ 「日本の歌」を
英語で歌いましょう
講 師 ▶ ドライデン いずみ
(本学非常勤講師)

日本のなつかしい童謡愛唱歌やアニメソングなど自分の好きな歌を英語で歌いながら楽しく英語力を身に付け、表現力豊かな国際人になることをめざしています。

「おもちゃのチャチャチャ」や井上陽水の「夢の中へ」など全10曲の指導が行われました。はにかみながらも一生懸命歌っている受講生の姿が印象的でした。



講座名 ▶ ～思い出には歌がある～
歌のチカラ／不滅の歌謡曲
講 師 ▶ 塩崎 喬
(本学非常勤講師)

昭和から平成へと時代を彩った名曲、その誕生の背景を探り、共

に聴き、歌い、語らう、歌謡フォーラムです。初回は、「ヒット曲誕生の秘密」で（私が出会った歌い手たち）として、小柳ルミ子、高橋真梨子、朱里エイコ、狩人などが紹介されました。2回目は、「昭和は歌の時代だった」で、戦後の復興と歌謡曲について解説。「懐かしの蓄音機とSP盤」が視聴されました。以降、「芸能王国 渡辺プロの時代」「不出世の作曲家 阿久悠の世界」「知られざる さだまさしの世界」「カラオケは心のビタミン剤」のテーマで講座が進められ、最後に受講生が感想を発表して終了しました。



西キャンパス

講座名 ▶ 人物(着衣)デッサンと
油絵実技
講 師 ▶ 徳田幹也
(元本学非常勤講師)

鉛筆や割り箸ペンを使ったクロッキーから木炭デッサン、そして、それを基にした油絵制作と講座が展開されました。アトリエには、男女2人のモデルを見つめながら筆を走らせる受講生と、一人ひとりに丁寧に声を掛けながら指導する講師の先生がいて、とても和やかな雰囲気でした。



講座名 ▶ カラー銅版画講座
講 師 ▶ 長谷川直美
(本学非常勤講師)

銅版を使い2版での多色刷り銅版画の制作をするものです。手法は間接法（エッチング）で、版面に防蝕層（グラウンド）を施し、露出した部分を腐蝕液で腐蝕させて製版する方法を採用しています。銅版画は初めてという男性の受講生は、クリスマスに向けてサンタクロースを描いているとのことでした。4色刷りにしたいと張り切っていました。

今回が2回目という女性は、着物のデザインを作っていました。受講生が自分のペースで作業を進めながら、講師の先生からアドバイスを受けていました。



講座名 ▶ やきもの講座―染付け技法で
絵付けに挑戦「花瓶を彩る」―
講 師 ▶ 齋木俊秀
(本学非常勤講師)

磁器の染付けに限定して、基礎から作品制作までを9回にわたり実習する講座です。あらかじめ用意された練習用の素焼き皿に、呉須を使って基本線・ダミの仕方を練習します。講座の後半で、高さ26.5cmの素焼きの花瓶に自分でデザインした絵柄を施し、世界に一つしかない自分だけの花瓶を作ることが目的としています。

受講生が自分でデザインしたオリジナルな絵柄を熱心に書き込んでいる姿が印象的でした。



音楽学部

北名古屋市民芸術劇場2010 ザ・ベストテン CONCERT

2010年11月27日(土)、北名古屋市民文化勤労会館大ホールで、北名

古屋市と名古屋芸術大学の共催により、伝説の歌番組「ザ・ベスト

テン CONCERT」が開催されました。北名古屋市民を中心に幅広い年齢層の方々が来場し、ポップスから演歌まで、歌とダンスに酔うひとときを過ごしました。

伝説の歌番組を再現し、懐かしく楽しいひとときを共有。

1978年1月19日から1989年9月28日までに600回以上放送され、日本の音楽シーンに大きな足跡を

残したテレビ番組「ザ・ベストテン」。伝説の歌番組として、今も人々の心に残ります。この番組が今回、北名古屋市民劇場で名古屋芸術大学の学生の手で復活。懐かしい歌の数々が会場いっぱいに響き渡りました。

出演は、名古屋芸術大学ミュージカルカンパニー・ワンの面々と、演奏に名古屋芸術大学ベストテンバンドで、生演奏をしながら、歌とダンスを披露。会場には老若男女が集い、一曲一曲に手拍子したり身体を揺すったりしながら、楽しいひとときを過ごしました。

曲目は「かもめが翔んだ日」(渡辺真知子)、「赤いスイートピー」(松田聖子)、「ダンシング・オールナイト」(もんた&ブラザーズ)、「君たちキウイ・パパイア・マンゴーだね」(中原めいこ)、「微笑

がえし」(キャンディーズ)など、懐かしいものばかり。これら一世を風靡した曲の合間に、ベストテンバンドによるジャズの演奏が行われ、こちらも大勢の喝采を浴びました。曲目はディズニーから「Beauty and The Beast」、T-SQUAREの「Omens of Love」「Truth」などが軽快に演奏されました。

1部と2部の間にはリクエストコーナーが設けられ、入場者はあらかじめ候補曲10曲が書かれたアンケート用紙から1曲を選んでいました。会場内で回収したリクエストのうち、最も得票数が多かった4曲を演奏しました。

第4位は「夢一夜」(南こうせつ)、第3位は「翳り行く部屋」(松任谷由実)、第2位が「津軽海峡冬景色」(石川さゆり)、そして第1

位が「夜桜お七」(坂本冬美)となりました。「津軽海峡冬景色」と「夜桜お七」では、着物姿での演歌でコブシのまわる歌声、パンチのあるのびやかな声に、演歌好きの方々からアンコールの声も上

がりました。

最後まで会場と舞台は一体となって楽しみ、懐かしい歌やコーラス、軽やかなステップのダンスを堪能しました。



まず「かもめが翔んだ日」(渡辺真知子)、「ミ・アモーレ」(中森明菜)、「ダンシング・オールナイト」(もんた&ブラザーズ)など、懐かしい名曲を披露



会場内からのリクエスト第1位「夜桜お七」(坂本冬美)を会場内から手拍子が歌い上げる



テンポの良いジャズの演奏に会場内から手拍子が終盤も元気に「君たちキウイ・パパイア・マンゴーだね」(中原めいこ)、「微笑がえし」(キャンディーズ)と続く

音楽学部

第33回定期演奏会 が行われました

2010年11月18日(木)、名古屋市中区の三井住友海上しらかわホールにおいて、本学音楽学部の第33回定期演奏会が行われました。

この定期演奏会は、学年を問わず多くの学生が参加したオーディションで選抜された出演者によるもので、独奏・独唱の形態による各個人の優れた技術と感性を表現

する演奏会となっています。

音楽学部では、学生は毎日の練習とレッスンを受けるのみでなく、舞台での演奏によって、その成果と教育効果を高めることができると期待しています。その意味からも多くの演奏会を開催し、学生が出演できる機会を作っています。

今回の演奏会にはオーディショ

ンで選ばれた17名の学生が出演しました。電子オルガン、クラリネット、ピアノ、コントラバス、フルート、サクソフォン、マリン

バの各独奏と、ソプラノの独唱は、家族や友人、指導教員などホールを埋めた満員の聴衆を魅了する素晴らしい内容でした。



音楽学部

第29回室内楽の夕べ が行われました

音楽学部主催の「第29回室内楽の夕べ」が第1夜(小編成)と第2夜(大編成)に分かれて開催されました。

第1夜は、2010年12月9日(木)午後6時から名古屋市の熱田文化小劇場で、三重奏から十重奏の編成で13のアンサンブルが出演しました。いずれも学内のオーディションにおいて選出されたグループで、ステージ前半は、クラリネット八重奏を皮切りに木管五重奏まで7組の演奏が披露されました。後半は、打楽器三重奏からピアノ五重奏まで6組が合奏しまし

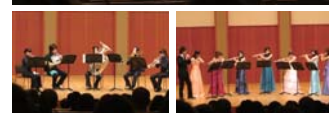
た。学生にとっては、協調性や柔軟性が求められるアンサンブルで、日頃の授業の成果をステージで披露する貴重な機会となりました。

第2夜は、2010年12月14日(火)、本学東キャンパス3号館ホールで開催されました。前半は、李善銘氏の指揮による古楽器アンサンブル(歌劇「アルミード」より「パッサカイユ」、弦楽のための協奏曲イ短調より第1楽章)と、ユーフォニアム&チューバ・アンサンブル(ディヴェルティエーノ)が出演しました。続いて、星順治氏の指揮による金管アンサンブルが、最後

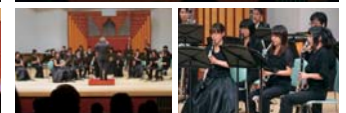
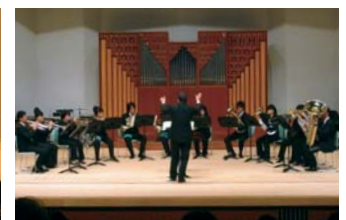
は、小松孝文氏の指揮でクラリネットオーケストラが演奏を行いました。後半は、打楽器アンサンブル(6人の打楽器奏者のための「ジャグラー」と三日月孝氏の指揮でサクソフォーンオーケストラ(美ゆらサクソス賛歌)が出演。

最後は、竹内雅一氏の指揮によるフルートオーケストラ(悲しいワルツ、おりづる)の演奏で終演となりました。

ホールに響く室内楽の音色に時を忘れ、会場からは盛んな拍手が送られていました。



第1夜



第2夜

音楽学部

2010年度 冬期音楽講習会

2010年度の冬期音楽講習会が本学東キャンパスで、12月24日(金)から27日(月)まで行われました。小中学生から高校生、社会人まで、目標のコースを受講しました。

開講されたのは、楽典コース、ソルフェージュコース、実技アド

バンスコース、実技ベーシックコース、サウンドメディアコース、ミュージカルコースで、楽典・ソルフェージュの各コースは習熟度別に初級クラス、中級クラス、上級クラスに分かれて行われました。実技コースは、声楽部門、ピアノ

部門、弦管打部門、電子楽器部門、ジャズ・ポップス部門に分かれて個別指導が行われました。

さらに今期は、推薦入試等で合格している2011年度の入学予定

者に、楽典・ソルフェージュを受講していただきました。

クリスマスも返上で、指導教員の言葉に熱心に耳を傾ける受講生の姿が印象的でした。



人間発達学部

人間発達学部3年生の山下藍さんが 「NHK中学生日記」の 主人公を追う番組に出演

NHK名古屋放送局制作の人気番組「中学生日記」の再放送番組『ブレイバック「15ビート」』が、2010年12月4日(土)に放映され、本学人間発達学部3年生の山下藍さんが出演しました。この番組は当時、中学生日記で主人公を演じた

山下さんの当時の夢や、その後を追う番組で、現在の山下さんが新たな夢を見つけ、それに向かって邁進する姿を捉えたものです。

山下さんは中一の時、中学生日記のオーディションに合格、中二の4月から出演していて、主役は

もちろん、エキストラを含めると多数出演したそうです。当時の夢は、“音楽をやる”ことでしたが、現在は、本学人間発達学部で保育士や幼稚園教諭の資格を取るための勉強をしています。人間発達学部への入学は、高校時代にボランティアをしていたこともあり、子どもが好きで資格も取れることから決めたそうです。また、音楽へ

の夢は、大学のサークルのバンドでヴォーカルをやりながら現在も引き継がれているそうです。



人間発達学部

2010年度後期文化創造セミナー 「美術を読む～「たとえ」に満ちている世界～」 が開催されました

2011年1月6日(木)13時より、東キャンパス3号館音楽ホールにて、2010年度後期文化創造セミナー「美術を読む～「たとえ」に満ちている世界～」が開催されました。人間発達学部では、以前より学生のみならず、地域の人たちにも参加を呼び掛け、興味・関心や視野を広げ、感性を磨くことを目的に「文化創造セミナー」を開催してきましたが、今回は本学美術学部版画コース/アートクリエイターコース教授の西村正幸先生を講師

に招き、芸術論を拝聴しました。

音楽ホールには237人の学生が集まり、講師の先生のお話が始まると、お話の中身に引きずり込まれて行きました。

講演は、「見る」、「読む」、「好き」などをキーワードに、「たとえ」に満ちている世界を読み解く＜ココロ＞を＜ソウゾウ＞してみようというのが趣旨でした。

最近のアニメ・映画の「もしドラ」を話題に「真摯さ」と「探究心」の大切さ。また「ソウゾウ」するこ

との二つの意味、イマジネーションの大切さ。さらに、「好き」という場合の「LIKE」と「LOVE」の違い、前者は同質なものを求める心であり、後者は異質なものを求める心を言い、異質なものを認めていくことが大切。子どもの「いじめ」問題も然り。「耳をすませば聞こえてくる、目をこらせば見えてくる、心をひらけば感じるものがある」ココロニヒビク、ビジュツノチカラの話。映画監督スピルバーグ、ミケランジェロ、申命記の「シエマ」

の話等々。最後に、絵本「100万回生きたねこ」の解釈。

日頃美術は「見るもの」と慣らされてきたが、「読むこと」「想像すること」で世界が広がり、変わってくる。日常、気にも留めない、気がつかないことに目を向ける美術、デザインにおける視点は、幼児教育、保育にも通じるということを学んだ講演でした。



美術学部

デザイン学部

特別客員教授 萩原修ディレクション 5つのプロジェクトファーム 「デザインのしゅうへん展」

大学創立40周年特別公開講座の一環として、2010年度アート&デザインセンター秋の企画展「5つのプロジェクトファーム『デザインのしゅうへん展』」が開催されました。この展示会は特別客員教授のデザインディレクター萩原修さんのディレクションによるもので、11月12日(金)から24日(水)

までの13日間にわたり、名古屋芸術大学アート&デザインセンターで開催されました。12日には、萩原さんとともに仕事をしているデザイナーや建築家の方々をお招きし、トーク&ディスカッション「デザインの周辺をめぐる」が大講義室で行われました。

仲間と生み育てた、 5つのプロジェクトを紹介

- 「5つのプロジェクトファーム」とは、萩原さんがプロデュースする5つのプロジェクトを表します。
- つくし文房具店 “つながるくらしとしごとをテーマにしたプロジェクト”
 - コド・モノ・コト “コドモといっしょの暮らしを考えるプロジェクト”
 - かみの工作所 “紙を加工してで

きる道具を追求するプロジェクト”

- てぬコレ “てぬぐいのコレカラを楽しむプロジェクト”
 - かみみの “美濃紙を活かした暮らしを提案するプロジェクト”
- これらのプロジェクトを企画展「5つのプロジェクトファーム『デザインのしゅうへん展』」で紹介。展示品を即売する場も設けており、初日から売り切れ商品が出るほどの人気をみせました。

トーク&ディスカッション「デザインの周辺をめぐる」では、萩原さんとともにデザイナーの林裕輔さん、安西葉子さん、プロダクトデザイナーの磯野梨影さん、グラフィックデザイナーの三星安澄さん、建築家の寺田尚樹さんが参加しました。

興味のあることを続ける、打ち込む、掘り下げる！

デザイナーの林さんと安西さんは、つくし文房具店のロゴや店舗などに携わるとともに、さまざまな文房具を開発しています。「普通のメーカーの仕事とは違って、何を作ったらいいのだろう、と考えることから始まります」と林さん。安西さんは「メーカーの仕事でも受けたまま返すのではなく、いろいろ考えてこちらからも提案しています」と話します。「自分の中の小さなアイデアを大切に育

てる。自分の好きなことを突き詰めることが大事」と学生に語りかけました。

コード・モノ・コトで、さまざまな道具のデザインをしている磯野さんは、「すぐに役に立たないようなことでも必ず糧になる。興味のあることに打ち込んで欲しい」とアドバイスをしました。

三星さんは、かみの工作所でオリジナルのプロダクトを提案しています。「イラストレーターのみうらじゅんさんの言葉に『またやってる』が『まだやってる』と言われるようになると一人前』というものがあります。興味のあることを掘り下げる。打ち込むと価値が出てきます」という三星さんの話を、学生たちはうなずきながら聞いていました。

建築家の寺田さんは、今回の企画展の会場デザインを担当しており、かみの工作所では建築模型用

添景セットを提案。「満足感がありますが、長いスパンなのでやりつづけるという覚悟が必要。私はプラモデルが大好きなので毎晩作っていますが、好きなことを続けることで人に負けない武器になると感じています」と話しました。

最後に、萩原さんが「モノでは

なく人に興味があるので、こういう立場で仕事をしています。好きなデザイナーは、個性がしっかりとっていて芯が通っている人。自分の世界観をもっている人と仕事をしています」と話し、トークを終えました。



展示会場への入り口では、5つのプロジェクトファームを映像で紹介



個性的な77点の作品が並ぶ会場。一つひとつ丹念に見ていく人が多い



プロジェクトファームを紹介する萩原修さん



ショップには、展示されている作品が販売されている



萩原さんと5人のデザイナー、建築家の各氏で和やかに始まったトーク&ディスカッション

美術学部

デザイン学部

美術学部公開講座 東京スカイツリー 「アートと社会の交差点」

2010年11月17日(水)、彫刻家・元東京芸術大学学長であり名古屋芸術大学特別客員教授、東京スカイツリーのデザイン監修者として知られる澄川喜一氏をお招きし、公開講座が開催されました。基調講演「東京スカイツリーをつくる」では、アートと都市・人間・社会の関係についてお話をいただきました。また「アートと社会の交差点」と題したパネルディスカッションも併せて行われました。

日本人の知恵から生まれた 素晴らしい制震システム

東京都墨田区に建設中の「東京スカイツリー」。完成すると634mの高さになり、世界一の電波塔となります。現在495mの高さまでできているということで、すでに東京タワーの333mを越え、毎日、大勢の見物人が訪れています。

講演は、奈良・法隆寺の五重塔の話から始まりました。7世紀にできた法隆寺の五重塔は、世界に誇ることのできる芸術品であると話します。地震や台風に対処今も

美しい姿で立っていられるのは、「建物の中心を心柱（しんばしら）が貫いている構造で、その心柱を中心に各層が独立している木組みであり、ともに支え合う構造になっている。それが制震機能となっている」からということです。

この制震システムを参考にすることから、東京スカイツリーの構造計画が始まりました。先端がデジタル放送のアンテナのため、一番上の部分は揺れないようにすることが大切であり、下の部分で揺れを吸収するように作られているということです。

塔の足は3本で、足元の平面形は正三角形でスタートしますが、上部に向かい次第に円形に変化していきます。「見る角度や場所によっては、ピサの斜塔のように傾いて見えるところがある。そういう不思議な表情のあるタワーをねらった」ということで、東京スカイツリーの模型を回覧、「美しさの魅力は不思議さがあること。アートは美しさをつくること」と説明しました。東京スカイツリー

の存在は地域の活性化につながり、新しいまちづくりのシンボルになることが期待されています。

芸術大学から生まれる 文化力を担うアーティスト

続いて「アートと社会の交差点」というテーマで、パネラーに彫刻家の絹谷幸太氏、彫刻家で名古屋芸術大学教授の神戸峰男氏を加えて、ディスカッションが行われました。

アート作品と社会との関わりについて、澄川氏は「国や地域の本当の実力は“文化力”である」と話すと、絹谷氏は「政治はその時代に浮かぶ雲のようなもの。文化は広く、子ども、お年寄り、民族を越えたもの」と応え、神戸氏も

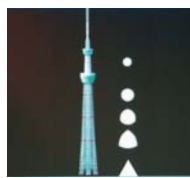
「国の力は文化の力。常に原点に戻ることは大切」と話しました。

また絹谷氏は、ブラジルで研究活動をしたときの経験を披露、アーティストが誠実に思いを伝えれば、社会で共感をもってもらえると力強く話します。

澄川氏は「専門の勉強は地域、社会の中で生かせる。国の文化力を高められる。そういうセンスをもった人たちが芸術大学からどんどん出て欲しい」という言葉をおくり、神戸氏が「崩れてしまった地場産業を再生させることがアーティストの役割。その手助けが大学の使命であり、文化力に価値観を置く美術系大学の存在である」と話し、アーティストと社会について意見を交わしました。



東京スカイツリー
完成予想イメージ



東京スカイツリーの模型に
触れ構造を観察

正三角形から円形へと
変化する塔の構造



東京スカイツリーのデザイン監修者
澄川喜一氏

美術学部

デザイン学部

2010年度後期交換留学生作品展 幼稚園児たちのゲイジツ展

2010年12月3日(金)から12月8日(木)まで、本学西キャンパスのアート&デザインセンターで、本年度後期の交換留学生作品展及幼稚園児たちのゲイジツ展が開催されました。今回交換留学生として来日したのは、フランスのディジョン大学からの3名で、テオ・カイ・シャンさん、ヴァンティン・

ハートランドさん、ルイス・オリヴァースさんでした。3日の夕刻5時から同会場で歓迎のレセプションが開かれ、来日したばかりの3人が覚え立ての日本語で挨拶をしました。その後、懇親会に入り、担当教員の平田先生と駒井先生を囲み、日本人学生たちと共に楽しいひとときを過ごしました。



今年で、12年目を迎えた「幼稚園児たちのゲイジツ展」。本学版画コース・アートクリエイターコースの学生たちの指導の下、附属クリエ幼稚園年長ゆり組とすみれ組61名の園児たちが制作した銅版画、リトグラフ、漉いた紙、

木工ボンドで作ったステンドグラスが展示されました。また10月に、年中組園児親子が西キャンパスで制作した「ありがとうカード」(フロッタージュ、コラージュ)も展示され、楽しく伸びやかな雰囲気での展示会となりました。

美術学部

デザイン学部

名古屋芸術大学創立40周年記念 特別公開講座<MCD>project ホンマタカシ公開ワークショップ 講評会

2010年11月5日(金)、デザイン学部メディアコミュニケーションデザイン選択コース主催、写真家ホンマタカシ氏の連続公開講座&ワークショップ第3回目が開催されました。

ホンマタカシ氏が アートとしての写真をレクチャー

連続公開講座の最終回となったこの日は、参加者たちが取り組んだ課題の講評会でした。前回までのおさらいとして、写真の歴史やアートとしての写真の手法について改めて解説。「決定的瞬間」「ニューカラー」という大きな2つの手法と世界観、さらに現代美術としての写真表現「ポストモダン」への流れを、世界的な写真家たちの作品やチャートを見せながら説明しました。作品を見ながらのレクチャーはわかりやすく、作

品づくりにも参考になりそうなものでした。

「ポストモダン」をテーマにした 作品を発表

解説が終わると、いよいよ講評会。前回のワークショップで「ポストモダン」をテーマにした作品づくりが課題とされ、学生たちは約2週間かけて取り組みました。

スクリーンに作品が映し出され、学生がプレゼンテーションします。意図や手法などを、ホンマ氏が質問しながら引き出していきます。その日の出来事に関する写真を新聞記事から切り取り、カレンダーにした作品には「面白い!」の声も。「出来事のメモも実際の記事を合成すると、もっとよくなると思う」と、具体的なアドバイスをを行い、学生も真剣な表情で聞き入っていました。



海外の写真家の作品から手法を学ぶ。



全作品の講評終了後、優秀作品を選ぶホンマ氏。



「今回、いちばん良い。大きな作品も見たい」と高評価を得た作品。



「自分の枠を拡張させることが大切」と総評。



終了後も、活発に意見交換していた学生たち。

次々に発表される作品はどれも個性的で、参加者は熱心に見入っていました。斬新なアイデアや手法が発揮されたものも多く、中でも失敗した写真を「作品」にした作品をホンマ氏は「ポストモダンの発想」と高く評価していました。

ホンマ氏と学生のやりとり会場から思わず笑いも起こることもあり熱気のある中にも和やかな

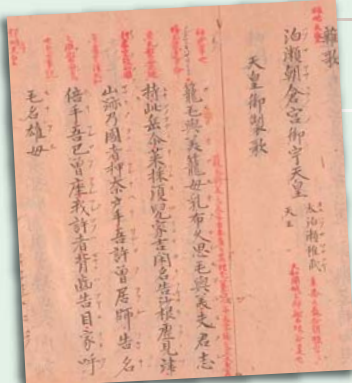
ムードで講評会は進んでいきました。

「ポストモダンの」作品を ホンマ氏がセレクト

後半は、評価の高かった作品の発表です。期待と緊張の中、作品が映し出され名前が発表され、13の作品が選ばれました。

「完成度は低いけど、狙いがい

Column NUA No.12



漢字と仮名の間

人間発達学部教養部会 教授 安藤淑江

「龍毛与 美龍母乳 布久思毛与 美夫君志持 此岳尔 菜探須兒...」『万葉集』巻頭をかざる雄略天皇の歌です。書き下さずに原文表記しましたが、この表記がこのままで「漢字仮名交じり」だというと、ちょっとびっくりする人も多いかと思いますが。下線の部分が漢字、ほかは仮名ですが、この違いがわかりますか?

古代日本人は長く無文字文化の中にい

ました。文字をもたない人々は、歴史を口承によって伝えていきます。天武天皇は、世にある帝紀・先代の旧辞に誤りが多いとして、それを正したものを神田阿礼に謄習させました(『古事記』序)。歴史書の「誤り」を正すのに、わざわざ語りの口と記憶を用いた理由は、それこそが正統の歴史語りだったからにほかなりません。

『古事記』は、「応神天皇の御代に百済の照古王が和邇吉師に論語十巻・千字文をつけて奉った」と述べています。文字伝来の伝承です。「和邇吉師は文首の

祖」とも述べています。ある渡来一族が文筆に携わるようになった経緯の神話化でもあるのです。中国語に習熟していた渡来人が、記録者として重用されていたのです。日本人も、すこしずつ文字を使うようになっていったに違いありませんが、私たちが外国語を習得するときのように、読み書きも含めて「中国語を習う」こととして始まったと思われる。

さて、日本のことを文字で書こうとすれば、当然、「中国語」にない日本語独自の言葉をどう表記するかが困難な問題として立ちはだかります。固有名詞・助

い。むしろ、完成度が低いのは今の流れ」「自分でルールを作って、その中で作品づくりをするといい。その好例」「造形的に美しい。ここまできれいにできれば、コンセプトではなく質感で表現できる」

など、それぞれの作品を評価し、「最終的にはセンスがモノを言う世界。ひとつのモノの見方として、なぜ僕がこれらの作品を選んだかを分析し、理解してほしい」とアドバイスしてくれました。

「作品づくりをする際には『自分、自分』と考えがちだけど、自分というものをそんなに信用せず、自分の枠を拡張するようにやっていくといい」と締めくくり、計3回の公開講座、ワークショップは

熱気に包まれたまま終了。その後も、個人的にホンマ氏に作品を見てもらう学生や、学生同士で作品の感想を述べ合うなど、興奮はなかなか冷めないようでした。

【グループ校特集】名古屋保育・福祉専門学校

「保育専門学校」ってどんな学校

名古屋保育・福祉専門学校は保育士・幼稚園教員・介護福祉士を養成する専門学校です。保育専門学校とはどんな学校でしょうか。

「何かを専門に学ぶ職業訓練校は全て専門学校」…このように考えていませんか？こみ入っていますので整理してみましょう。

1. 専修学校・各種学校・無認可校

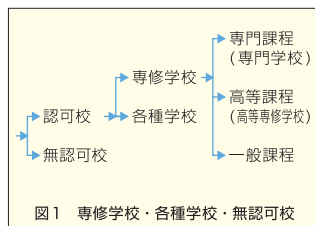


図1のように区分できます。専修学校は修業年限が1年以上、授業時数が800時間以上（夜間は年間450時間以上）、生徒が常時40人以上であり知事の認可を受けている学校です。これは高等、専門、一般の3課程に分かれ、このなかの専門課程だけを専門学校と呼んでいます。専門学校の入学資格は基本的には高校卒業です。高等課程は中学卒業、一般課程は学歴を問いません。高等課程は高等専修

学校と呼びます。これは高等専門学校（高専）とよく似た響きですが全く別物です。

条件を満たす専門学校では専門士の称号が取得できます。通常、専門士は短期大学士、高等専門学校卒業の準学士と同等の扱いです。また大学編入も可能です。

学校教育に類する教育を行う機関として各種学校があります。知事の認可が必要です。年間授業680時間以上、修業年限1年以上が基本ですが、簡易な技術では3ヶ月以上です。入学資格に制限はありません。

専修学校、各種学校とともに認可校ですが、そうでない無認可校もあります。法令に基づかない教育施設ですから自由に開校できます。しかし、学校行政の管轄外なので質が保証されませんし、正式な学歴にもなりません。

以上、専門学校と他の学校との違いを分かっていただけでしたでしょうか？次に保育士・幼稚園教員養成校について説明します。

2. 保育士・幼稚園教員養成校

卒業と同時に自動的に保育士資

格が取得できる学校は、厚生労働大臣が指定する指定保育士養成施設、幼稚園教諭の免許状が取得できる学校は文部科学大臣が指定する幼稚園教員養成校と言います。

表1のように大学から専門学校まであります。保育士はどの学校で取得しても資格に区別はありません。幼稚園教員は大学の「1種免許」、短期大学、専門学校の「2種免許」、大学院の「専修免許」に分かれますが免許の種類による職務制限はありません。幼稚園教員は専門学校が全国に92校、愛知県に6校ありますが、文部科学大臣より直接指定を受けている学校は全国で35校、愛知県には2校しかありません。本校はその内の1校です。

「指定保育士養成施設」「幼稚園教員養成校」の指定を受けるためには、施設、設備、教員資格…ハード、ソフト両面で、高いハードルを越えなければなりません。本校はその2つの指定を受けてい

る専門学校であり、昭和33年の開設以来52年間にわたる保育者養成のノウハウを蓄えており、高い評価を得ています。本校は同一敷地内に滝子幼稚園を持ち、学生は幼稚園の実際に肌を感じながら学んでいます。即戦力となる実践的な教育と、名古屋芸術大学のグループ校として情操教育となる芸術教育に力を入れています。

本校では専門士も取得することがので大学編入が可能です。系列の名古屋芸術大学人間発達学部3年に編入すれば幼稚園教諭1種、小学校教諭1種も取得できます。

今後ますます大学との連携を深め、より充実した教育を行うため、平成23年4月よりこれまでの「名古屋保育・福祉専門学校」から「名古屋芸術大学保育・福祉専門学校」に校名を変更します。

校名変更後も皆さまの暖かいご支援を心よりお願い申し上げます。

名古屋保育・福祉専門学校
保育科長 畔柳守男

		国公立大学	私立大学	国公立短大	私立短大	専門学校	合計
保育士養成校	全国	4校	155校	1校	158校	110校	428校
	愛知	0校	15校	0校	11校	7校	33校
幼稚園教員養成校	全国	8校	162校	1校	159校	92校	422校
	愛知	0校	15校	0校	11校	6校	32校

表1 保育士・幼稚園教員養成校数（平成22年）

詞・助動詞・擬態語や擬声語、また発音をそのまま表記したい「ウタ」などです。この問題の解決のために用いられたのが、(中国語の)文字の発音だけを使って、日本語の発音を表記する、という方法です。所謂「仮名の発生」です。「万葉集」に多用されていますから、「万葉仮名」ともいいます。当初は楷書で書かれていたので、見た目は「漢字」と全く同じです。この「万葉仮名」が草書化されて「草仮名」になり、今私たちが使う仮名字と姿を変えていきます。

ところで、「仮名」の反対語は「漢字」

だと思いませんか？間違いはありませんが、正しくは「真名」です。中国語では、文字＝形＋意味＋発音です。一人前の文字には必ず意味と発音がある。だから「本当の文字＝真名」なのです。でも発音だけの「仮名」には意味はありません。発音だけです。真名から意味をとっちゃったもの、だから半人前の文字「仮名」というわけです。

ちなみに、これは、日本語表記のために、特別に工夫されたものではありません。中国語は他の外国語表記にも同様の手法をとっています。例えば「阿弥陀(ア

ミターバ＝無限の光を持つ者、闇を照らす者)」「孟蘭盆(ウランバナ＝霊魂が帰る)」、サンスクリットの教典をそのまま音写した陀羅尼、などの例があります。仏教関係ではありません。「比丘」は「キューピー」です。

最初の歌にもどりましょう。「籠毛与美籠母乳 布久思毛与 美夫君志持 此岳尔 菜探須兒・・・」下線のある文字は意味があり、他の文字は発音を表しているだけだということが分かるでしょう。漢字と仮名の区別は、形ではなく、意味があるか発音だけかによるのです。

右は、「草仮名」。初めは楷書で書かれていた仮名が草書化したものです。ここでは「な見のいとろくたつを見て」と「見」字が2回使われています。はじめの「見」は仮名、あとの「見」は真名(漢字)です。わかりますか？





マスター ↑↓to アーティスト



【第12回】

< 旅と痛み >

吉川正道 美術学部 工芸領域
陶芸コース 教授

(よしかわ まさみち)

1946年 神奈川県生まれ
1968年 日本デザイナー学院研究科卒 常滑陶房杉入社
1971年 朝日陶芸展 優秀賞
1972年 ヴァロリス国際陶芸ビエンナーレ国際大賞
1981年 朝日陶芸展 大賞
1983年 第一回朝日現代クラフト展 グランプリ
1984年 IAC会員 (国際陶芸学会・スイス)
1985年 民族芸術学会会員
1992年 ニヨン・ボースリントリエンナーレ2席受賞
1998年 ミュンヘン国際アート&クラフト展 ゴールドメダル受賞
1999年 札幌芸術の森クラフトコンクール 優秀賞
2000年 第3回出石磁器トリエンナーレ グランプリ
2001年 第1回韓国国際陶芸ビエンナーレ 銅賞
2002年 第18回ヴァロリス国際陶芸ビエンナーレ 金賞
2003年 第2回韓国国際陶芸ビエンナーレ 審査員 乾由明賞
2004年 第1回台湾国際陶芸ビエンナーレ グランプリ
2006年 愛知県芸術文化選奨 文化選奨受賞
2007年 ロイヤル・カレッジオブアーツ 特別客員教授に招聘
2009年 マレーシア・マラ工業大学客員教授就任

西キャンパスA棟、1階の研究室隣にある簡易接客室にお邪魔した。そこで使われている、モダンでシャープな意匠の湯呑み。揃いの器には季節の蜜柑がおもむろに盛られていた。

「庄司さん(庄司達教授)に、お茶会をやるんで茶器を造ってと言われて、造った時に残った物ですよ。焼き物はどうしてもリスクがあって、必要な数の倍ぐらい造るんです。」

若くして才能が認められ、20代の頃から大きな賞を総ナメと言っ

ていい程獲得してきた。実用の器にも、巨大なモニュメントにも、軽やかさ、土の重量感、洗練された造形・・・様々な要素を見る者に感じさせる。

「常滑に来たのは、卒業して間もなくですよ。」

イサムノグチが大きな脚光を浴びた潮流激しき時代。柳宗悦、白樺、民藝運動とファインアート・・・。「役者が揃っていたね」と述懐する。そのうねりの中へ飛び込んでいった。

デザイナーになろうとインテリ

アディレクションを学ぶ学科にいた氏は、卒業制作で、テーブルウェアのフルセットデザインをし、それを実際に焼き物で制作した。

「陶芸とか、ガラスとか、木工とか、石、金属そういう素材を扱う現場で修行したいと思って、まずは職人さんや実際に仕事に従事している人たちの中に入って、どういう風に仕事が出来上がってくるのか知るために常滑に入ったんです。素材の現場確認ですよ。」

卒業後、陶芸家杉江淳平氏の『陶房杉』の設立にスタッフとして参加し、その後独立。現在自工房を

個展『陶思考』



a

『The water of life-渚-』



b



昨年、4月～11月まで、宮城県栗原市の風の沢ギャラリーで行われた個展『陶思考』。古い農家と広大な里山を背景とした風の沢ギャラリー、そのこけら落としとして開催された。山中遊晶氏による能とのコラボレーションなど、期間中は多くのイベントも開催された。



風の沢ギャラリー
(<http://www.kazenosawa.jp/>)



c

中部国際空港、旅客ターミナルビル1階団体待合ロビー
幅27m、高さ2.8mもの巨大な陶壁作品。手前には、馴染み深い丸い陶のオブジェも並ぶ。広々とした開放的な空間をさわやかな青白磁が彩る。



d



「a, b, c, dは現代いけばな作家・松田隆作氏とのコラボレーション作品」

構える。「ヨゼフ・ボイスの『人間は誰もが芸術家であり・・・』とあるじゃない。簡単に言えば労働者も、どんな仕事をする人もみんな、アーティストなんだ、って本当に同感ですね。」

美術、デザインを学ぶ学生たちは、気持ちの上で準備ができていない人が多い、と言う。「自分が疑問に思ったことをちゃんと確かめに行かない、その現場に行っていない。」そんな学生たちに、優しくも厳しく「行ってこい、見てこい」と繰り返し語りかける。

「逃げないで、一生懸命作ればいいんですよ。卑下する必要もないし、イーブンで、自分の尺度でやればいい。何もわからない世界へ飛び込んで、一から学ぶわけですから、誰でも痛い思いはします。失敗しても、それこそが大事な経験なんです。まずは、自分のダメなところ、弱点をさらけ出さなきゃ。そここそがその人の才能なんです。そうやって一人前の表現者、クリエイターになってもらいたいと思っています。学業だけで終わらせず、プロとして生きて行ける道を開いてほしいんです。私はね、その手助

けをしたいんですよ。」

体を使って覚えたこと、現場を見る素直な姿勢は、現在も変わりにく貫かれている。繊細さと力強さが共存する作品の佇まいに大いに納得した。

「自分の疑問の答えを探す、それが旅に出ることですよ。憧れましたねえ、旅に」

豪胆に笑う姿から、土の匂いがした。

2011年2月～4月までの主な行事・イベントスケジュール

※予定は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。

音楽学部

- 平成22年度 研究生修了演奏会
2月1日(火) 18:30開演
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- 第9回 歌曲のタベ
2月10日(木) 18:30開演
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- 大学院音楽研究科 特別演奏会
2月15日(火) 17:30開演予定
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- 第15回 春のコンサート ピアノのしらべ
2月19日(土) 17:30開演
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- オペラ公演 「フィガロの結婚」
2月19日(土) 15:00開演
2月20日(日) 15:00開演
名古屋市芸術創造センターホール
- アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン
第12回定期演奏会
2月23日(水) 18:15開演予定
長久手町文化の家 森のホール
- 第38回 卒業演奏会
3月3日(木) 18:00開演
3月4日(金) 18:00開演
三井住友海上しらかわホール
- 平成22年度 音楽企画(8)
"ザ・ルネサンス21"
3月8日(火) 18:00開演
本学東キャンパス3号館ホール
- 大学院音楽研究科
第13回 修了演奏会
3月9日(水) 18:30開演予定
3月10日(木) 18:30開演予定
3月11日(金) 18:30開演予定
三井住友海上しらかわホール

- ミュージカル公演
3月19日(土) 18:30開演
3月20日(日) 14:00開演
名古屋市青少年文化センター
アートピアホール
- 名古屋芸術大学オーケストラ
ワークショップ
3月26日(土)・27日(日)
本学東キャンパス2・3号館

美術学部 デザイン学部

- アートクリエイター・美術文化領域
AO・推薦・地域入試合格者
第5回入学前スクーリング
2月26日(土) 10:00～
本学西キャンパスG棟
- 第15回大学院修了制作展
美術研究科・デザイン研究科
3月1日(火)～6日(日)
9:30～19:00(最終日17:00)
名古屋市民ギャラリー矢田
- 第38回卒業制作展
3月8日(火)～13日(日)
愛知県美術館ギャラリー 10:00～
名古屋市民ギャラリー矢田 9:30～
本学西キャンパス 10:00～
- 映像作品上映会
3月11日(金) 18:00～20:00
3月12日(土) 10:00～20:00
愛知芸術文化センター12階
- 卒業制作展記念講演会
3月12日(土) 14:00～16:00
愛知芸術文化センター12階
講師:篠山紀信

- AO・推薦・地域入試合格者の入学前
スクーリング(卒業見学ツアー)
3月12日(土)
美術学科
(アートクリエイター・美術文化・彫刻・
工芸領域)
愛知県美術館ギャラリー/名古屋市民
ギャラリー矢田 10:00～
デザイン学科
愛知県美術館ギャラリー 13:00～
- オープンキャンパス(スプリング編)
3月27日(日) 10:00～
本学西キャンパス

人間発達学部

- 幼稚園実習先との懇親会
2月7日(月) 15:30～
名古屋ガーデンパレス
- 春を呼ぶ文化・芸術交流の集い
3月4日(金) 13:30～
- 新入生合宿セミナー
4月5日(火)・6日(水)
合歓の里(三重県)

全学部・大学院

- 卒業式
3月23日(水) 11:00～
中京大学文化市民会館
- 入学式
4月4日(月) 10:00～
本学西キャンパス体育館

名古屋保育・福祉専門学校

- 入学選考日
2月26日(土)
- 進学相談会
2月5日(土) 10:00～12:00

- 卒業式
3月18日(金)
- 入学式
4月5日(火)

附属クリエ幼稚園

- おながくかい
2月8日(火)・9日(水) 10:30～
- お別れ会
3月11日(金) 13:30～
- 卒園式
3月15日(火) 10:00～
- 新入園児体験入園
3月17日(木) 10:00～
- 終業式
3月23日(水) 9:30～
- 始業式
4月7日(木)
- 入園式
4月8日(金)

滝子幼稚園

- 生活発表会
2月20日(日)
- ひなまつり会
3月3日(木)
- 修了証書授与式
3月17日(木)
- 終業式
3月24日(木)
- 入園式
4月7日(木)
- 始業式
4月8日(金)

編集後記

新しい年を迎え、木枯らしの吹く大学キャンパスは、卒業シーズンとなりました。3月に入るとすぐに始まる卒業演奏会や卒業制作展、また、大学院生の修了演奏会・修了制作展。学生たちは締めくくりに晴れ舞台に向かって忙しい日々を送っているようです。

今回は、本学を卒業して実社会で活躍されているOBやOG取材し特集しました。卒業から現在までの経歴をお伺いしながら、大学時代の体験や現在の仕事の内容・取り組み姿勢や考え方、また、将来の夢や目標などを語っていただきました。アトリエや勤務先の会社に直接お邪魔してリアルな現場を拝見させていただきました。これから社会

に出る学生には大いに参考になることと思います。卒業生の皆様ありがとうございました。益々のご活躍をお祈りしています。連載の「Close up NUA-ismOB」は、特集に組み込みました。

ニュース&トピックスは、秋の芸大祭や生涯学習公開講座を取り上げました。東キャンパスは年末の冬期音楽講習会を、西キャンパスは2010秋の企画展 萩原修ディレクションなどを取材し、紹介しています。

本誌へのお問い合わせやご意見は下記のメールアドレスまでお寄せください。
geibun@nua.ac.jp



大学基準協会の 認証評価に合格しました

本学は2006年4月に、認証評価機関である大学基準協会の大学基準に適合と認定され、正会員になりました。認定期間は、2006年4月から2011年3月までです。これによって、法令化されている「第三者による認証評価」にも合格したことになります。



表紙の写真

歌劇『タンクレーディ』中井亮一(アルジューリオ役)、石彫『風の指標』山田将晴他。
※特集内で紹介

発行:名古屋芸術大学
編集:全学広報誌編集委員会
制作:(株)クイックス
発行日:2011年2月15日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 芸術文化交流室
〒481-8535
愛知県北名古屋市徳重西沼65番地
電話 0568-24-0325
Fax 0568-24-0326
E-mail geibun@nua.ac.jp